

「ドゥシャンベ市第15保健所医療機材整備計画」 引渡し式

2月2日、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」によりドゥシャンベ市第15保健所に整備された医療機材の引渡し式が行われました。引渡し式には、タジキスタンを訪問中の長島昭久内閣総理大臣補佐官、古田駐タジキスタン大使、アミルゾダ保健社会保護次官、ガイラトゾダ所長らが出席しました。

本計画で我が国政府が100,120米ドルをドゥシャンベ市第15保健所に供与し、新しい医療機材が整備されたことにより、より正確な診断が可能となるとともに、市民の医療サービスへのアクセスも改善されました。

長島補佐官は引渡し式の挨拶で、保健・医療分野は日・タジキスタン二国間協力において特に重要な分野の一つであり、この支援がタジキスタンの持続可能な発展につながり、日本とタジキスタンの友好が強化されることを願っていると述べました。これに対して、アミルゾダ保健社会保護次官からは、日本政府及び日本国民からの支援に対して謝意が表明されました。

タジキスタンでは、1996年から今日まで、草の根・人間の安全保障無償資金協力として合計462件、総額約3,800万ドルに上るプロジェクトが実施されています。

